

四月二二日

昨夜は磯崎さんと良い酒を飲んだのに今朝はそれが少し残っている。荷造りを素早くして九時家を出る。十時四十分学部レクチャー。サティアンとドラキュラの家。日本の住宅総生産と世界のそれとの関係について述べる。次回はサイモン・ロディアのワッツタワーとアントニオ・ガウディのサグラダファミリア教会について。それと日本の近代住宅の事例を年代を追って述べてみる。昼食後、バウハウス・コロキウムでのレクチャーのスライドを整理し論旨もまとめる。十五時建築展の委員長等と会い作業を中断したが、十七時頃全て終了。東京発十九時〇三分のナリタエクスプレスに乗っている。この記録が現実を追いつくのに時間がかかるようになったよ。成田は中国産の肺炎でガラガラだろうと予測していたら、エクスプレスは七割位の席が埋まっていた。只今二一時前エールフランス二七三便のチケットインを済ませ、グライター、ツインマーマンへの手みやげも買い、ユーロに少々換金して出国。出発ロビーの小さなスナックでビールを飲んでい。先程家内に電話したら、マスクしてらんでしょねと言われたので、勿論してると答えたが実はしていない。このロビーに中国産肺炎用のマスクなんかしてる人間は一人も居ない。先程空港内職員の一人がデッカイマスクをしているのを見ただけだ。報道がいかに針小棒大を本能的に行うのかわかる。TVはTVカメラが向けられている現実だけを切り取って伝えるから、たまたまマスクをし

ている人間をカメラがとらえれば、それがたった一人であっても視聴者には沢山の人が用心してマスクをしているのだと伝わってしまうのだ。TVは現実の全てを伝えていない事を心しなくては。

四月二三日

昨夜は二二時頃離陸。今は日本時間で朝の八時五〇分。よく眠った。先程トイレにたったら面白い風景に出会った。光っていたから光景と呼ぶべきか。旅客の大半がそれぞれの席のTVスクリーンに見入っていて、そのスクリーンの映像がバラバラであったり、同じモノであったり。選択肢は少ないのだが、そのバラバラさと統一性が興味深かった。何となく、コレが現代かと感じた。敦煌の洞穴群に感じたのと同じだけコレワ。敦煌では映像の数々が砂丘に埋まっている。つまりコンピューターが砂に埋まっている、それがチカチカ光っている状態のようだと思った。アノ実感と今の、ジュラルミンのエアークラフト内での体験は似ている。エアークラフトを飛ばす技術と、このチカチカの技術が併在しているのが現代だ。一万メートルの上空を高速で飛び続けるのも技術なら、そのジュラルミンのお棺みたいな中で、それぞれの旅客がそれぞれの好みでチカチカの映像を見ているのも技術の成果なのだ。都市の夜景が美しいのも実ワ同じなのか。要するに現代の電子技術はチカチカと発光する。その発光体が古い近代の内部空間や建築空間を侵食しているのではなからうか。あと二時間程でパリに着く。今度のワイマール、バウハウス大学への旅では折角だからこの辺りの事を考えてみるかな。その機内光景を写真にとる。オランダ島二五KMとやらの辺を飛んでいるらしい。ヨーロッパの中心部はこのようにコンピューターの動く地図画像で見る

と小さいんだなア。四時過パリ、シャルル・ドゴール空港着。R
Cのシエルターとメタルのスペースフレームが混在した変な空港
だ。六時半ようやくF³⁴ゲートへのゲートが開き動く。こんな深
夜着の便飛ばしても、空港が機能していないんだから、矛盾があ
るな。空港で働く人の立場になってみると、グローバリズムは身
体的に無理があると言う事になるのだろう。ベルリンへの飛行機
がすでに停泊しているのがガラス越しに見える。小さな飛行機だ。
ベルリンのポジションが解るような気がする。もうすぐ夜が明け
るのだろう。空にうすい青味がしみ出てきた。考えてみればパリ
にいるのだが、空港にはパリの匂いは無い。この空港はニューヨ
ークのTWAの中身を抜いて、ガラガラにしたようなモノだな。
ダム型の断面がぶつかり会うところに妙な鳥の翼状の形が露出し
ていて、それが知れた。ワールド・フォトプレスの部厚い大作
「看板力」に書いた事だが、遂に空洞としての建築とサイン、シ
グナルだけで空港は作られるようになっていて。六時二〇分ごろ。
人がそろそろ動き始め、集まりの形をとり始めて、ようやくガラ
ンとした空間が生きてきた。しかし、この天井のスペースフレ
ーム状のトラスは間違いだ。むしろコンクリートの方のシエルター
がうまくいっている。コンクリートの表明に細い筋目を入れたり
して、これは職人が手でやったにちがいない。八時過エアーフ
ランス一四三四便でベルリンに飛んでいる。こんなに動いてどうす
るんだと又も自問する。動く分だけ良いモノ作って、良いモノ書
くしかないかと平々凡々たる答えに辿り着くだけだ。作るのも書
くのも一つ一つ大事にしなければならぬ年令にとこの昔になって
いるんだが、人生は本当にままならない。じっとしていれば良い
モノ作れて、良いモノ書けるっていう保証はないしナア。何より
も先ず、この世田谷村日記の質を上げる事くらいからしたら良い

のも解っている。日記でいうのは色々やって分つたが、本当に端
的に人間の實力が出てしまうモノなのだ。九時前飛行機が降下し
始めた。ベルリンが近いのだろう。九時過ベルリン空港着。ベル
リン空港周辺は空から眺めるに河の多い自然に恵まれた場所のよ
うだった。どうしてもベルリンの名は暗さを喚起してしまうので、
意外だった。しかし、ヒトラーの影はまだ消えようにならないのは言
うまでもない。J・グライターが空港に迎えにきてくれて、三日
振りの再会。三日振りというのは普通は無い表現だが、仕方ない。
ポツダム広場の近くのベルリンの中心に在る広場を見る。ハン
ス・シャルーン、ミス・ファン・デル・ローエ、ピアノ、ジエ
ームス・スターリング設計の建築群を見る。ミースのナシヨナ
ル・ギャラリー、シャルーンのナシヨナル・ライブラリー、ベル
リン・フィル・コンサート・ホール。巨匠達の作品群に触れ、建
築の想い止み難し。シャルーンのナシヨナル・ライブラリーの内
部は良かった。内にランドスケープが展開されている、巨大なス
ケールで。SONYの建築は情けない。日本の企業だからと言っ
て屋根に傾いた富士山乗せるとはね。しかし、国の中心部、つま
り首都ではこのような乱暴な事が起きやすいのだ。ミースの中
にも入った。バルセロナ・パビリオンと同様な壁材の使い方があつ
た。地下は極く普通にまとめ、地上部分に力を傾注したのがよ
く解る。グライターの友人の建築事務所に寄って、ハイウェイに
乗り一路ワイマールへ。途中昼食をとり、十五時過ワイマールへ
到着。ヘエ、こんなに美しい街だったのかと思う位に美しかった。
ニーチェ記念館に宿泊なので、そこに荷を預け、バウハウス大学
へ。ツインマーマン元学長に再会。ニューヨークのANYの会議
であつた方に挨拶される。ANY的役割をこのバウハウスの集ま
りがヨーロッパで果たし始めているのを知る。ツインマーマンの

組織力の成果であろう。十七時レクチャー。開放系技術、ワークフォーマイノリティについて話す。一時間チョット。つたない英語でやってしまった。終つて、学生達の拍手が大きかったので、マアマア通じたのであろう。途中で逃げ出す奴もいなかった。終了後、ツインーマンその他とビールを飲みに出かける。柄谷行人夫妻と再会。ニューヨークで何日か一緒だったので懐かしい。夕食をバウハウス・コロキウム参加者と共にする。二十二時前二ーチエ・ハウスに戻る。以前ここに宿泊した時は、二ーチエの亡霊の妄想に悩まされたが、なにしろ二ーチエがここで死んだという事実が余りにも強烈で、お化け屋敷の印象が強かったが、今回はそんな事もなく、快適である。シャワーを使って、倒れるようにベッドにもぐり込み眠った。マ、義理は果たした。

四月二四日

今日は原則的に何もする必要が無い。朝六時半までよく眠った。小一時間メモを記す。二ーチエ・ハウスの北西の窓のデスクでこれを書いてる。ワイマールに来るのはこれで三度目だ。人間の縁というのは変なものだな。バウハウスのモダニズムとは縁遠い筈の私が人間的にはバウハウス大学と縁でつながるのだから。二ーチエ・ハウスの周囲の環境は素晴らしい。静かな朝の光の中で色々と考えてみる。明日のドレスデン大学の特別講義の準備はすぐに終えた。十時前グライターと朝食に出る。ワイマール市内のカフェテリアへ。モダン・アート・ミュージアムへ行くも改装中で閉館。アドルフ・ヒットラーの命で建てられた建築を再び見学。シウル・レアリズムの一部がナチズムの成果品である建築と酷似するのは何故だろうか。見果てぬ夢を視ようとする欲望が同根だからなのか。違うのか。ゲートのローマン・ハウスを見て二ー

チエ・ハウスに戻る。ここであれこれ考えているのが一番だ。十四時バウハウス大学へ。十四時半コロキウム開始。十七時前柄谷行人のレクチャー・建築と社会聴講。資本(MONEY)を自然としてとらえる視点。ポール・ヴァレリーの手法と建築のとらえ方についての相似点に始まり、アレギザンダー、ウイリアム・モリスの試行と近代のデザインの移行、ポスト・モダン、デコンストラクティビズムの総批判等、総合的なクリティークの態度が良かった。ANY・NEWYORKの時と変わりない。それが安心できる。その後一つレクチャーを聴いて、柄谷氏とメシを喰いに出た。柄谷行人も、ワイマールまでやってきて、総合的なモダン・デザイン批判をやって少しばかり場違いな感を自覚していたのだろうし、孤立無縁の風もあり、レストランの戸外テラスでビールを飲んで色々話し合う。柄谷氏のレクチャーは英語で世界の前線と、言語だけで渡り合っている辛さを一身に引き受けている風があつて良いのだった。ナムの会の経過も話しに出た。今度やる時は助けますよの話になり、マ、あれやこれやでワイマールで意見を交換できたように思う。二十一時前、坂道を登り、二ーチエ・ハウスに戻る。メモを少しし眠る事にする。今日は一日ゆっくりできて体を休ませる事ができた。

四月二五日

三時二〇分眼が覚めてしまう。そういえば昨夜柄谷氏が面白い事言つてたな。NAMがインターネットの交信から始まつてしまつたので、運動にリアリティが無かつたのかもしれぬと。日本では文学の世界ではすでにステータスもあるのだけれど哲学の世界には領域の壁があつて仲々入り切れぬ現実があると。建築の世界には好奇心があり続けているが、どんな本から入れば良いのか尋ね

られたが、柄谷が相手ではすぐに答えられものではない。深夜二
ーチエがここで死んだ部屋でこのメモを記しているのだが、とり
とめの無い考えがグルグルまわるだけだ。開放系技術論のすすめ
方であるが、体系的に考えをまとめてゆく力が今はどうやら不足
しているから、具体的な素材の断片から少しづつ書いて、まず部
品をつくりそれをアトでアッセンブルする方法しかないだろう。
その部品であるが「物」ではないな。情報というアブストラクト
なものでもなく、コンピュータの描くラインのようなもの、今
職人がつかっているスミツボ代りのレーザー探査ツールみたいな
ものの叙述から始めるべきだろうな。磯崎論はブツデイズムと建
築の無関係の関係の方へ、フォーカスを絞ってゆかねばならぬだ
ろう。二ーチエ・ハウスでなければ深めようが無軸だぜコレワ。
只今朝四時、少し彰国社の原稿書いて、又眠ってみようか。七時
二〇分起床。今日は予定ではドレスデンへの往復になっているが、
さてどうするか。しかし、ヨルク・グライターにしても他のドイ
ツ人もっと広くヨーロッパの人間はアブストラクトな思考に熱中
する傾向が強い。それが言語中心の思想、哲学を良く育ててきた
のだろう。日本人にはこのアブストラクトな透明度は無いように
思う。八時過こついう孤独もいいものだ。年令を積み重ねて、
ようやく最近、独人でいる時間がいとわしくならなくなってきた。
ワイマールの二ーチエ・ハウスでだからそんな風に考えてしまっ
たのかも知れないが。今日はここ二ーチエ・ハウスにジャン・ポー
ドリヤールが来て、宿泊するらしい。ドレスデンに行かなければ
会えるのだがドレスデンで学生に話しをした方がよい。九時前、
ヨルク・ネーニツク、ウルフ・プライネス、二ーチエ・ハウスに
私を訪ねてくる。二人共私のワークシヨップ、早稲田バウハウ
ス・スクールの学生であり、私のオフィスのスタッフでもあった。

二人と共にそのままドレスデンに発つ。ハイウェイを走り、昼前
ドレスデン着。カフェテリアで昼朝食。ドレスデン市のセンター、
カテドラル周辺をヨルクに案内される。旧東独時代のアパートの
リノベーションが仲々良い。サクソニアン・バロックの建築を幾
つか見て、ドレスデン大学近くのカフェで休む。ドレスデン大学
ライブラリーでレクチャーの準備をした後、フォルクスワーゲン
の新しい工場を案内してもらう。非常に興味深かった。テクノ・
パーク、テクノ・エンターテイメントの趣あり。ドイツ型のテー
マパークだなこれは。イギリス型のハイテクとは全く異なるタイ
プのもので、チョツと日本風の精密さがある。車の生産ラインが
全て透明に公開されていて、ゆつくりと静かに動く。全てオート
マテュアリーで様々なロボットが働いている。黒いユニフォーム
のファクトリーガイド、スタッフもまるでロボットみたい。ここ
にはジェイムズ・ボンドは決して登場しない。メカニカルではあ
るのだが、クールではない。どこかにエンターテイメントの甘さ、
計算されたコマーシャルイズムのフィーリングが張りつめている。
ノーマン・フォスターの建築の感じとは似ても似つかぬモノがあ
る。ヨルクが言うように、都市内の市民が楽しめる工場になつて
いるが、何処かに甘さがあつて、ファースト・クラスの建築には
なり切れていないのだ。USA、オレゴン州のポートランドで見
た、工場をリノベーションしたオフィスの感じに酷似していた。
十七時よりレクチャー。五〇名ほどのオーディエンスで良いスケ
ールで、非常にタイトな関係の中で話ができた。チョツと私の方
が乗り過ぎて、率直なヨーロッパ批判をやってしまったかも知れ
ぬが、私としては良い出来のレクチャーであったと思う。十八時
過終了。二人程学生が来て、私のところで働きたいと言う。時々
私のところに連絡するように言って別れる。ここの学生はチョツ

とブルーカラーの感じがあって、私は好きだ。レクチャー後、幾つかのドレスデンの現代建築を見る。良いモノがあった。コーポヒンメンブラウの建築にも初見参。彼等の仕事はインディペンデントなものではなく、ドイツのある種のストリームの中にある事を知った。最後に見たダブルスキンのレイトモダニズスタイルの建築が良かった。エルベ河のほとりでビールを飲み、ワイマールに戻る。二十二時頃ワイマール着。エレファントホテルに行くもグライターはおらず、ヨルク、ウルフとワイマール市内のレストランで遅いディナー。食事が終わった頃グライター現れる。その後、エレファントホテルへ。Barに行くと、ツインマーマン教授のバウハウス・コロキウムの中がいた。チューリンゲン州の首相もいて、ツインマーマン教授に紹介してもらった。首相とは佐賀のバウハウス、早稲田のTVカンファレンスで、衛星TVを介してお目にかかり、何がしかのジョークを交じえた会話を交してはいたが、実物に会うのは初めてだった。こういう実にフランクな場所ですらに会えて何気ない会話ができるのがワイマールなんだなと思った。ツインマーマン教授と色々話を交わし、グライターと共にニーチェ・ハウスに戻ったのが一時だった。

四月二六日

そんな訳で只今翌日の一時四十分。このメモを記している。明日はフランクフルト、パリ経由で東京へ帰る。短い旅であったが良かった。バウハウス大学、ドレスデン大学の二ヶ所でレクチャーをする事ができた。ヨルクとウルフとも再会できたし、ギリシヤのクリストモフの情報も得る事ができた。クリスは今年の八月に兵役を終えるらしい。ツインマーマンとの義理も果たす事ができたし、何より彼との親交を深める事ができた。柄谷行人とも再

会した。

六時半過ぎ目ざめる。シャワー、荷造り。只今八時半頃。旅立ちの準備も全て終えた。今、十二時過、ワイマールの城の前の広場に座っている。スケッチを一つ終えたところだ。何しろ静かだ、ここワイマールにゲートをはじめとする歴史上のヒーロー達が皆死に帰ったのが何となく解るような気がする。風が吹いている。だからどうしたって居直ってみても、それでも風が吹いている。スケッチブックを繰っていたら死んだ佐藤健のギリギリ生き延びていた頃の顔があった。まったく、淡々として哀しいものだ。しかし、私もこれでくたばってしまったら何も残らない。菅原が言うてくれたように、これからの為に今迄があった事を肝に銘じよう。ワイマールの風に吹かれて死んだ佐藤健の事をチョッピリ懐かしんでいる。シンシンと音がする位に静かだ。昼食はツインマーマン教授、グライター教授と。十四時過の特急でフランクフルトへ。今動いている。

只今十八時半前。フランクフルト空港のBarで赤ワインを飲んで時間をつぶしている。あと一時間チョッと手持無沙汰だな。この空港内のカフェテラスはミーティングポイントでもあるらしく、到着便を待つ人と、着いてゲートを出てくる人が会うところでもあるらしく久し振りに再会した家族、恋人、友人、諸々の再会の仕方がある。やっぱり一番安定しててキラキラしていないのは家族らしきであるな。恋人らしきはどうもいかな。お互い以外へのいたわりの気持ちがない。プロレスリングじゃあるまいし他人前でブチブチするな。今、眼の前で初老の親父と、堂々と老けた母親と三十前の息子なんだろうな、が淡々と話し合っているが、実二これが普通で良いのだな。お互いの眼差しにしっかりとつながりがあった、それが私にも伝わって

る。恋人達のそれは余りにも卑俗に劇的で、いつ壊れてもおかしくないのが良く解る。十九時前になった。そろそろゲートに入るか。俺のところのガキはあんな風に淡々と気持ち伝えることができるんだらうか。二〇時四十分少し前定刻より早く二四一九便はパリへ発った。ボーイング737型で小さな飛行機だが客は十数名。ガラガラだ。西の空が日没の色彩に色どられて美しい。

二十二時半過、F49のゲートで休んでいる。二十三時二十五分発のAF274は定刻通りに飛ぶようだ。

四月二七日

十六時三〇分過。あと一時間程でNRT。ヨーロッパは近くて遠い。今日中に十勝毎日の原稿を書かなくてはいかん。NRTに着いたらベシーの菅原に電話してみよう。六時〇五分のリムジンバスで新宿へ。そういえばここ五日間は完全にTVも新聞にも接しなかった。まことに静かな生活であった。十九時半過京王線で世田谷村に戻っている。いつの日か旅と日常が同じように過ごせるようになりたいものだ。日本人の顔は本当に緊張感に欠けているな。電車で漫画を読むガキも多いな。

四月二八日

七時過起床。昨夜も良く眠れたので時差は解消か。朝久し振りに屋上菜園に上る。今日はこの菜園の日経の取材がある。ブルーベリー、ラベンダーが咲いていた。そろそろ屋上デッキも貼りたいのだが、時間が無いし、体力もない。今日はここでゆっくりしよう。体を少し休ませなくては。

四月二九日

茅野角大製材所へ行く。TV局取材もかねる。栗の樹の育っている山へ登る。急斜面で仲々の所であった。二ヶ所で栗材を見る。朝山さん同行。そう言えば今日は休日なのだが今日も休めない。

四月三〇日

朝院レクチャー。先端技術特論。先日のドイツ、バウハウス大学、ドレスデン大学と同じ材料を話し話した。午後三時演習G。修了後三年建築展グループと話す。何がしてやれるか覚つかぬが今年が教育の最期だと思ってやってみる。そう言えば沖縄での老人達のロングインタビューを出版しないかと言う。有難い話が来ていたがどうなったかな。自分の周辺情報も把握し切れない現状は恐い。